

一般社団法人 大曲青年会議所

第六次中期活動指針(2021～)

SINCE 2021

LINK to 25

～ここに住まうを価値に Area大仙郷～

作成 2020年度 一般社団法人 大曲青年会議所

I 中期活動指針策定の背景

1. これまでの沿革

○JC運動の目的

1973年、青年の立場より国際経済と密接に連繋することによって地方経済の発展、ひいては日本経済の自立という重大なる問題の解決をはかるべく、志を同じうする地域の青年経済人が結集し、大曲青年会議所が創立されました。JC運動の目的は綱領にもある通り、「明るい豊かな社会を築き上げる」ことです。この目的を達成するため、49年にわたり「明るい豊かな地域づくり」を目指し、連綿と運動を展開してきました。また、「明るい豊かな地域づくりを行う人間を育てる」ことは、もう一つの大きな目的であり、「まちづくり」「ひとづくり」の両面をバランスよく展開することが我々JCの目的と捉えています。

○これまでの中期活動指針と大曲JCの歩み

当青年会議所は、この目的を達成するため過去5回に渡り中期活動指針を策定し、5年毎の活動の道標としてきました。第1次「うるおいフィールド大曲仙北」・第2次「夢 full まち大仙」・第3次「Wing 大仙郷～大いなるつばさ」・第4次「Shangri-la～その名は大仙郷」・第5次「Innovation 20～大仙郷に変革の波を～」であります。第5次中期活動指針期間である2015年からの6年間では、小学生を対象とした「おしごと学校」や高校生を対象とした「あなたは大人ですか？子供ですか？」などの青少年育成事業、「異業種交流会」などの若者や他団体とのさらなる連繋を目的とした事業、「農業が変える未来 たがやせ大仙郷」や「大仙郷リノベーション～共に語ろう地域の魅力～」などの地域資源を活かしたまちづくり事業、全日本残月花火選手権大会の継続開催、(社)中和国際青年商會との30年以上に渡る国際交流やNEXT大仙郷VISIONの策定、JCI大曲創立45周年事業などを実施し、2020年秋田ブロック大会主管を務めたほか、「ほほえみアイドリンクのすすめ～印象は一瞬で決まる～」などの会員の資質向上を目的とした事業、また持続可能な開発目標SDGsを取り入れ、「明るい豊かな地域」の実現に向け運動を展開してきました。

○大仙郷を取り巻く環境の変化と今後の展望

2019年、「一人ひとりが明日への希望を胸にそれぞれの花を大きく咲かせる」、そうした願いが込められた「令和」という新たな時代が幕を開けました。しかし、各市町の総合戦略を見ても人口減少やコミュニティの崩壊、産業衰退など地域が抱える諸問題は依然として深刻な状況にあり、また追い打ちを掛けるかのように、2020年初頭より感染拡大をしている新型コロナウイルスによって、社会が大きく変わろうとしています。そのような中、美郷町においては、2021年に開催予定の「2020年・東京オリンピック」ではタイのバドミントン選手の合宿を受け入れ、スポーツを通じた地域活性化、また、仙北市においては、SDGsを原動力とした地方創生などを目指しております。大仙市においては、2004年から05年にかけて行われた、大曲仙北地域の市町村合併から15年を迎えます。これからの大仙郷において新しい生活様式へ向かって変化が生まれ始めた今、私たちは青年会議所として、これからの期間、どのような活動の指針を定めればよいのでしょうか。

2. 中期活動指針策定の経緯

会員一人ひとりが積極的に責任感をもち活動するため、また地域に共感と変革をたらずことが出来るようなJC運動・活動を実現するために、今後の指標となるべき指針の策定が必要です。

会員が想い描く展望や展開方法・活動について、地域に必要なこと、求められることを、組織として明確にすることで、今後も時代に併せ、活力に満ちた運動と活動を展開していく必要があり、そのためには、長期的なビジョンを作り、アクションプランを策定し、実施・実現に向けたロードマップを描く必要があります。

今回、指針を策定するにあたって、第5次中期活動指針期間中における運動・活動の検証を実施し、会員の意見を集約するためのワークショップを開催しました。会員が集い、今まで実施してきた事業活動について、続けること、問題点、挑戦することなど、議論を行いながら、整理し、その結果を統合することにより新たな指針を作成しました。

Ⅱ 中期活動指針の意義

1. 中期活動指針の必要性

現在LOMの置かれている状況を踏まえ、そして今後、私たちJAYCEE が施策を展開する上で共有できる基本目標・展開方法を示しています。また、目標を達成するために考えられる具体的な活動案を示しています。

2. 中期活動指針のコンセプト

すべての活動は、目的の達成に繋げて行かなければなりません。2025年までに我々の運動が、この街に住まうことに価値を感じる大仙郷に「LINK」します。この地域や住まう人々のために「LINK×For」、青少年がここで育ち、住み続ける「LINK×Up」、多くの同志とともに「LINK×With」をベースに運動を展開していきます。

2025年の明るい豊かな大仙郷に向かって、この地域のために、この地域の青少年の成長を願い、この地域の多くの同志と共に、この地域に住まうを価値に。

「LINK×For×Up×With to2025」。

3. 中期活動指針の期間

この指針は、2021年度からの展開方法を示しています。第5次中期活動指針は、策定時の2014年における社会情勢を踏まえ6年間を期間としましたが、これまでの中期活動指針は概ね5年を目処に見直しを行ってきました。本指針は2021年度から2025年度までの5年間を期間とすることとします。

Ⅲ 基本目標

LINK×For ～住まうものとして、この地域のために～

LINK×Up ～この地域で育ち、住まうこと～

LINK×With ～JC活動を通じて、同志と共に～

第六次中期指針

基本目標の実現に向けた展開方法

① LINK×For ～住まうものとして、この地域のために～

大仙郷は自然に溢れ、魅力のある伝統文化、産業があります。しかし、若者の人口流出に加え、新型コロナウイルス感染症拡大により、社会経済活動は大きな変革を遂げる必要があり、リモートワーク・ワーケーション推進など、生活様式の変化や多様な働き方ができる時代に切り変わろうとしています。

定住人口、交流人口さらには関係人口の増加に向け、地域の未来を考えるには我々だけでなく、多くの関係団体の力は必要不可欠であり、パートナーシップを構築し、地域が求めていること、地域が必要としていることを考えながら地域の活性化や地域の価値の創出につなげる取り組みを積極的に進めていきます。

② LINK×Up ～この地域で育ち、住まうこと～

少子化の流れを止めることは、簡単ではありません。しかし、大仙郷で生まれ、大仙郷に残り、生活していきたいと思う心を育むことは可能です。大仙郷の自然に触れ、魅力のある伝統文化、産業を知り、青少年自身がこの大仙郷の魅力に気付き、郷土愛を自ら感じる必要があります。生活様式の変化、デジタル化によるメリットとデメリット等、青少年を取り巻く環境を考えながら、リーダーシップと協調性に富んだ青少年、この地に住み続けてくれる青少年の育成に積極的に取り組みます。

③ LINK×With ～JC活動を通じて、同志と共に～

有意義な活動を行う組織として成長するためには、会員一人ひとりが、積極的に青年会議所の運動と活動に参画し、活用し魅力的な人財へと成長を望むことが大切です。社会構成の変化とと

もに、JC活動を取り巻く状況も大きく変化しています。時代に即した、活動し易い環境づくりを行い、会員の拡大、会員の資質向上、JAYCEEとしての満足度の向上をもって、多くの同志と共に活動を活性化します。地域での認知度、市民からの信頼度を得られるLOMへと取り組みます。

具体的活動案

① LINK×For ～住まうものとして、この地域のために～

- ・地域資源と産業資源の新たな可能性を見出し、活用した事業を行う。
- ・関係人口と交流人口と定住人口を増やすための事業を行う。
- ・企業・団体・有識者とのパートナーシップを拡充し、ともに事業を行う。
- ・地域の特性を活かし、この地域独自の事業を行う。
- ・地域コミュニティを巻き込んだ事業を行う。
- ・文化・公共施設・空き家の利用の再考・再生を提案する事業を行う。
- ・ワーケーション、リモートワーク等のオンラインを活用した事業を行う。
- ・災害に備える安全対策、災害後の復興に関する事業を行う。
- ・大曲青年会議所の魅力を伝える事業を行う。
- ・ダイバーシティ&インクルージョンを推進する事業を行う。
- ・各事業において、SDGsの達成に向けた活動を取り込む。
- ・第6次中期活動指針に関しての中間検証、最終検証を設け、2026年以降の活動へ繋げる。

② LINK×Up ～この地域で育ち、住まうこと～

- ・地域資源と地域産業を取り入れた事業を行う。
- ・オンライン活動、デジタル関連やSNSに関する事業を行う。
- ・青少年の多様な能力の開発に繋げる事業を行う。
- ・伝統・文化・産業の見識を深め、郷土愛に気付く事業を行う。
- ・青少年の意見を取り入れた事業を行う。
- ・高校生と連携した事業を行う。
- ・青少年と大人がともに体験する事業を行う。
- ・教育関連施設の誘致を行う。
- ・子育て世帯が増える事業、子育て世帯が住みよくなる事業を行う。
- ・ダイバーシティ&インクルージョンを推進する事業を行う。
- ・各事業において、SDGsの達成に向けた活動を取り込む。
- ・第6次中期活動指針に関しての中間検証、最終検証を設け、2026年以降の活動へ繋げる。

③ LINK×With ～JC活動を通じて、同志と共に～

- ・2025年まで65名以上を目標に毎年3割以上増の会員拡大を行い、事業の拡大に繋げる。
- ・財務の強化や定款諸規定の見直し等の管理と運営の改善を行い、入会しやすい環境を整える。
- ・会員のライフスタイルや育LOM制度を考慮し、活動や交流をし易い環境を整える。
- ・会員の資質向上に繋がる人材の育成事業を行う。
- ・地域にインパクトある活動の展開と広報活動を行う。

- ・会員交流事業を行う。
- ・国際交流事業を行う。
- ・OB会との連携を強化し、活動を行う。
- ・協賛企業の募集やクラウドファンディングを活用し、事業の拡大に努める。
- ・各事業において、SDGsの達成に向けた活動を取り込む。
- ・**第6次中期活動指針に関しての中間検証、最終検証を設け、2026年以降の活動へ繋げる。**

VI 中期活動指針の実現に向けて

2025年の私たち。
想像してみてください。

「自分自身の意識の変革をしなければなりません。あなたの努力次第です。忙しい、大変、出来ないと初めから諦めていませんか。」その様に問われ、JAYCEEとしての価値を見出すことが出来ますか。その様な組織に人は、集まりますか。人口減少、家族構成の変化、景気低迷、我々を取り巻く環境は、そういう時代から大きく変わったのです。JC運動・活動の価値の転換期です。まずは、環境の改革からの意識の改革を目指すべき、時代に即し、我々自身に達成感や満足を生む環境を整備し、多くの同志と活動を展開します。我々自身の「JAYCEEとしての価値」が2025年の「大仙郷に住まう価値」へと「LINK」するのです。

2025年の大仙郷。
想像してみてください。

ロードマップが指し示す目標に向かい、～のために、～の向上・成長を、～と共にの「For×Up×With」を明確にし、リンクしながら運動と活動を展開していきます。自らが率先して行動することで、住み暮らす人を巻き込み、行政を動かし、地域を動かします。JCI大曲が地域に根ざし、地域を想い、地域を変える姿を目指して共に頑張ります。そこには必ず居なくてはいけない存在へと我々が「LINK」しています。

2025年の大仙郷と私たち。
想像してみてください。

住まう価値がそこにある。私たちの街、大仙郷。

私たちなら、必ずできる。